
見上げた空は青かった

憂里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

見上げた空は青かった

【コード】

N0024K

【作者名】

憂里

【あらすじ】

恋愛になんて興味はない少女、尋が幼馴染の涼輝に惹かれていく

告白の苦痛

「俺・・・尋のことが好きだ。付き合ってくれ!」

「・・・・・・・・ごめん。無理。」

私の返事はいつもこう。相手が誰かなんて関係ない。どうせ皆、私のことなんて分かっていないんだ。

可能性なんてないのに、告白するのは馬鹿だと思う。それで振られて、私を『悪者』にする。そんなの卑怯だ。

・・・・・・・・男なんて、嫌い。

この時の私は、恋とか恋愛には興味なくて。

『恋』がこんなに嬉しくて、悲しいものだなんて、知らなかった。

告白の苦痛（後書き）

始めまして。憂里です。

へたくそな小説ですが、最後まで読んでいただけたら幸いです。

友達

大きく深呼吸をして、教室への扉を開ける。
毎日のことだが、少し勇気がいるのだ。

．．．ガラッ

私が教室に足を踏み入れることによって、皆静かになる。

(ねえ、尋つてば涼輝君の告白断ったらしいよ)

(えー信じらんない!!!絶対、モテるからって調子乗ってるよね。)

誰に告白されたって、断る私は女子の過半数から嫌われている。
でも、別に気にしない。ちゃんと信頼できる友達がいるから．．．

「尋ちゃん、おはよう!」

私の友達、高橋美嘉だ。

「おはよう美嘉。」

「また告白されたの?モテるねえー」

「．．．でも返事はいつも、同じだから。」

「うん、分かってる。」

美嘉は1番の理解者だ。

私の気持ちをいつも分かっていて、一緒にいて楽。

今は彼氏とか、恋人を作る気はない。

『前の男が忘れられない』とかじゃなくて．．．

そついつ感情が分からないだけ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0024k/>

見上げた空は青かった

2011年10月6日20時43分発行